



平成30年3月7日

ユネスコエコパークへの推薦地の選定について

ユネスコが実施する生物圏保存地域*（ユネスコエコパーク）に関して、3月6日に開催した、日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会「人間と生物圏（MAB）計画分科会」において、「**甲武信**」（埼玉県、東京都、山梨県、長野県）を、ユネスコに推薦する地域として選定いたしましたので、お知らせいたします。

今後、日本ユネスコ国内委員会を通じてユネスコに申請書を提出し、2019（平成31）年春頃に開催されるユネスコ MAB 計画国際調整理事会において、登録の可否が決定される予定です。

* 英名 : Biosphere Reserve (BR)

（同時発表：農林水産省、環境省）

【本審査スケジュール（予定）】

| | |
|----------------|------------------------------|
| 2017（平成29）年10月 | 国内公募締切 |
| 2018（平成30）年9月 | 日本ユネスコ国内委員会を通じてユネスコに申請書を提出 |
| 2019（平成31）年春頃 | ユネスコ MAB 計画国際調整理事会にて登録の可否が決定 |

【参考資料】

- ・生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）国内公募要領等

<http://www.mext.go.jp/unesco/005/1341691.htm>

<http://www.mext.go.jp/unesco/005/1358624.htm>

- ・生物圏保存地域審査基準

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2014/06/03/1341691_05.pdf

ユネスコエコパークの概要及び今回推薦の対象となる地域の概要等は、次頁以降のとおりです。

<担当> 文部科学省国際統括官付

（日本ユネスコ国内委員会事務局）

国際統括官補佐 秦 絵里 （内線 3087）

企画係長 山本 文 （内線 4734）

電話：03-5253-4111（代表）

1. 概要

ユネスコエコパーク^{*}(生物圏保存地域、英名 : BR: Biosphere Reserve)は、生物多様性の保全、持続可能な開発、学術研究支援を目的として、1976年(昭和51年)にユネスコが開始。ユネスコの自然科学セクターで実施されるユネスコ人間と生物圏(MAB: Man and the Biosphere)計画における一事業として実施。

「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」に基づく世界遺産が、手つかずの自然を守ることを原則とする一方、ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)が目的。「保全機能」、「経済と社会の発展」、「学術的支援」の三つの機能をもつ地域を登録。そのため、ユネスコエコパークは、「核心地域」、「緩衝地域」と共に、「移行地域」(地域社会や経済発展が図られる地域)を設置。

登録総数は、120か国、669地域(2017年(平成29年)6月現在)。

※ユネスコエコパークは我が国の国内呼称。

2. 期待される効果

ユネスコエコパークの登録地は、ユネスコエコパーク世界ネットワークに登録。

ユネスコという国際機関からの世界的な評価を受けることにより、自然環境の保全や自然と人間社会との共生に関する地域の取組を、国際的にも発信し、ネットワークを通じて情報の共有化が図られることや、それにより当該取組がより一層推進されることを期待。

また、地域における持続可能な発展に関する学習の場としての活用、自然環境の保全や持続可能な資源の利活用に関する普及啓発、持続可能な社会の構築のための人材育成への貢献を期待。

3. 今回の推薦地

「^{こぶし}甲武信」

評価のポイント：

- 推薦地は、太平洋側から日本海側までの広い領域を支える水源地の環境を持ち合わせ、人間の活動と生態系保全のバランスがとれた地域である。
- 生態系、絶滅危惧種等について広範囲な調査も行われており、生物多様性の保全上、重要な地域である。これらの学術機能を活用した、さらなる保全活動、並びに地域における普及教育活動が期待される。
- 農業や林業、企業と連携した森づくり活動などの持続可能な経済活動が実施されてきており、今後、移行地域のモデルとなるような活動の実施が見込まれる。
- 今後も、多くの関連自治体や民間とのパートナーシップに配慮した体制づくりに努めつつ、ユネスコの世界ネットワークの一員として、MAB 戦略 2015-2025 及びリマ行動計画¹に基づき、国内外での多様な連携・協力活動が望まれる。

¹ユネスコ人間と生物圏(MAB)計画事業における戦略及び行動計画
(以下 URL 参照)

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2016/09/05/1341821_07.pdf

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2016/09/05/1341821_09.pdf

生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)について

ユネスコが1976年（昭和51年）に開始した、生物圏保存地域※（国内呼称：ユネスコエコパーク）は、ユネスコ自然科学セクターのユネスコ人間と生物圏（MAB：Man and the Biosphere）計画の枠組みに基づいて国際的に認定された地域。

※英名： Biosphere Reserve (BR)

世界自然遺産が、顕著な普遍的価値を有する自然地域を保護・保全するのが目的であるのに対し、ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としており、保護・保全だけでなく自然と人間社会の共生に重点が置かれている。

認定総数は、120か国、669地域（2017年（平成29年）6月現在）。

ユネスコエコパークの機能

1. 保存機能（生物多様性の保全）
2. 経済と社会の発展
3. 学術的研究支援

個々の機能は独立のものではなく、ユネスコエコパークの機能を相互に強化する関係。この三つの機能を達成するためエコパークの中に、相互に依存する右の三つの区域を設定。

核心地域

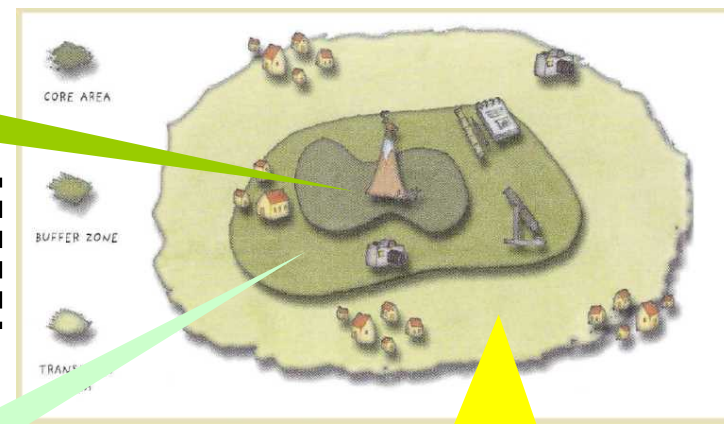
厳格に保護
長期的に保全

緩衝地域

核心地域を保護するための緩衝的な地域
教育、研修、ITツールの活用

移行地域

人が生活し、自然と調和した持続可能な発展を実現する地域



国内のユネスコエコパーク

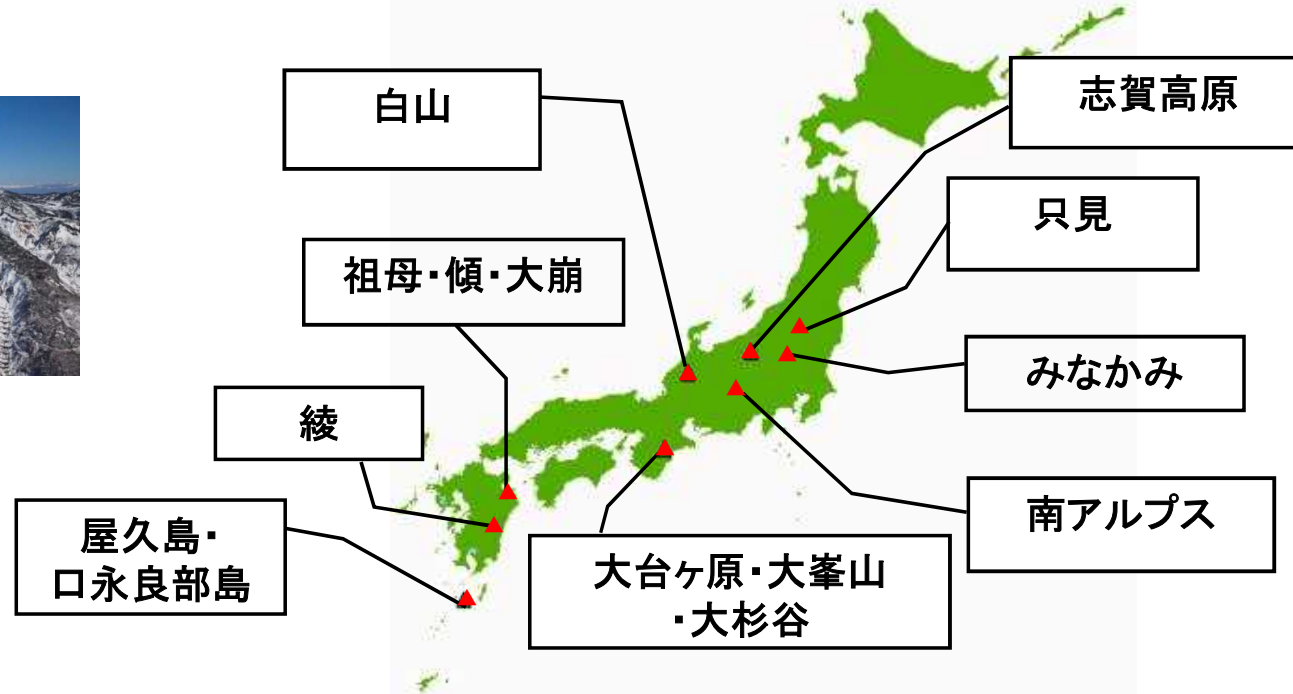
日本のユネスコエコパークは以下の9か所である。それらの核心地域や緩衝地域は、国立・国定公園や国有林の保護林として保全されている。

- 1980年（昭和55年）登録 「志賀高原」（長野県、群馬県）、「白山」（富山県、石川県、福井県、岐阜県）
「大台ヶ原・大峯山・大杉谷」（奈良県、三重県）
「屋久島・口永良部島」（鹿児島県）
- 2012年（平成24年）登録 「綾」（宮崎県）
- 2014年（平成26年）登録 「只見」（福島県）、「南アルプス」（山梨県、長野県、静岡県）
- 2017年（平成29年）登録 「祖母・傾・大崩」（宮崎県、大分県）、「みなかみ」（群馬県、新潟県）

白山火山(©白山市)



志賀高原(©山ノ内町)

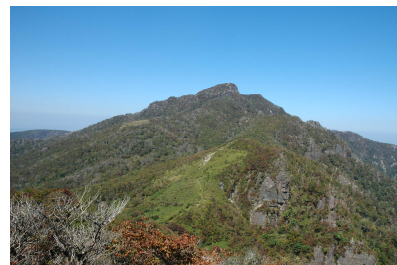


利根川のラフティング(©みなかみ町)

縄文杉(©屋久島町)



照葉樹林(©綾町)



祖母山(©高野弘之)



大杉谷峡谷シシ淵(©大台町)



甲斐駒ヶ岳と水田(©南アルプス市)



ブナ天然林(©只見町)

「甲武信」の概要について

1. 名称: 甲武信生物圏保存地域 (甲武信ユネスコエコパーク)
(申請者: 甲武信ユネスコエコパーク登録推進協議会)

2. 構成地域¹:

埼玉県(秩父市、小鹿野町)

東京都(奥多摩町)

山梨県(甲府市、山梨市、大月市、北杜市、甲斐市、甲州市、小菅村、丹波山村)

長野県(川上村)

3. 特徴等:

○特徴

- ・甲武信ヶ岳、金峰山、雲取山等の日本百名山に挙げられる山々が連なる奥秩父主稜を中心に、これを源流とする荒川、多摩川、笛吹川(富士川)、千曲川(信濃川)流域にまたがる地域をエリアとしている。
- ・この地域は、山岳や森に加えて御岳昇仙峡等の渓谷が、四季折々に彩りを変える日本的で素朴な美しい自然に恵まれており、首都圏近郊にありながら、連続性があり、生物多様性に富む、貴重な生態系が広く保全されている。
- ・古来人々を楽しませてきた民俗芸能が保全・伝承され、山岳・神社信仰にまつわる多様な文化が、今もなお息づいている地域でもある。
- ・山肌を覆う深い森は、首都圏や周辺地域の水源域として古くから守られてきており、現在でも上流域と下流域の水の繋がりを意識して、森づくりや自然保護等に取り組む団体や事業者、地域住民も多い。
- ・国内最大の生産量を誇るモモやブドウなどの果樹や高原野菜における環境配慮型の農業や、FSC 森林管理認証による林業など、持続的な農林業も広く営まれている。

○面積

総面積 190,603ha

- ・核心地域 13,364ha
- ・緩衝地域 70,858ha
- ・移行地域 106,381ha

※ 核心地域と緩衝地域は、秩父多摩甲斐国立公園、秩父山地森林生物遺伝資源保存林、十文字峠植物群落保護林、金峰山生物群集保護林や秩父山地緑の回廊等に指定されており、適切な保護・保全が図られている。

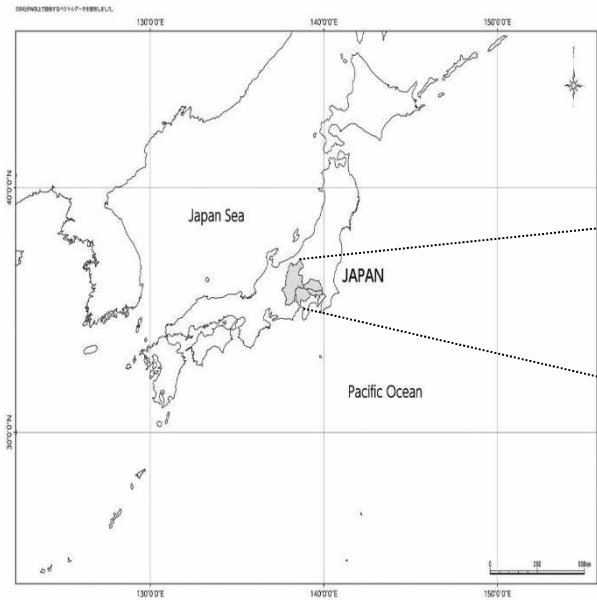
※ 移行地域は、国立公園に隣接する山間地や山間盆地を主としている。第一次産業を中心とした土地利用がなされ、自然環境の保全と調和した持続可能な発展を念頭に置いた取り組みが推進されている。

¹ 候補地域に含まれる都道府県及び市町村

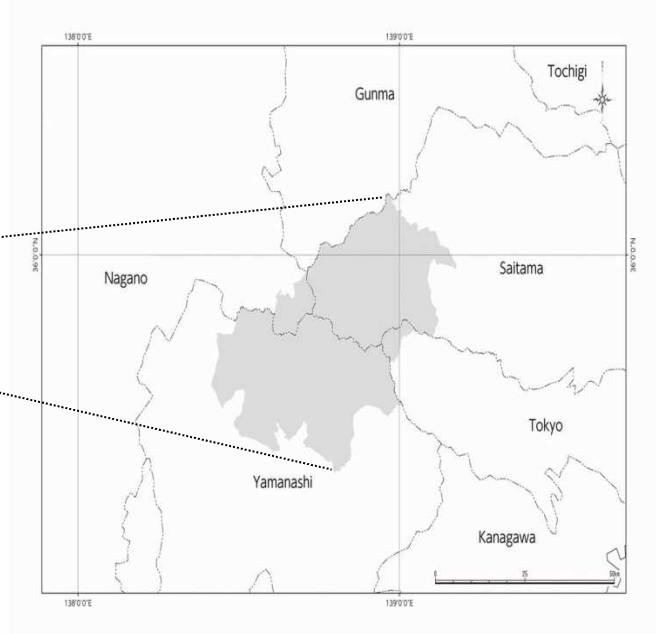
「甲武信」の位置等

位置

(図面1) 日本における位置図



(図面2) 甲武信BR候補地の位置図



範囲・ゾーニング

(図面3) 甲武信BR候補地の3地域区分図(ゾーニング図)

